

2025年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
経営学部	教授	杉谷 正次
最終学歴	学位	専門分野
愛知学院大学大学院文学研究科博士課程前期修了	文学修士	スポーツ経営学、経営情報学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

自らのクレド「教育も研究も一步一步着実に」をモットーに、学生には、ものの見方や考え方の基礎・応用を身につけさせるとともに、本学園の建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を教育理念とする。

【目標】

教育力の向上を目指すとともに、建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」、校訓「真面目」、教職員の心構え「子弟を教育するは、私事に非ず。天に事（つか）うるの職分なり」を意識した教育活動に努める。教育力の向上については、「魅力ある授業づくり」、建学の精神を意識した教育活動については、「問題解決能力を備えた、真面目で責任感のある人材」を育成する。

【方針】

事前事後学習を積極的に取り組ませる授業、わかりやすく興味の持てる授業を目標とした「魅力ある授業づくり」に取り組む。

【計画（方法）】

本学が導入している PC 必携（BYOD）制度を最大限に生かし、講義科目、演習科目とも PC を積極的に活用する。講義科目では、毎時間シラバスで提示した講義の目的と概要を提示するとともに、事前事後学習につなげるための資料提示、毎回提示する課題を活用しつつ、学生ひとり一人の理解度を確認していきながら講義をすすめる。演習科目では、問題解決能力を身につけさせるため、各自が設定した研究テーマにおける課題を明確にさせ、それに対するレポート作成、プレゼンテーションなどの指導にあたる。特に3年生の専門演習では、研究発表、また4年生の専門演習では、卒業レポートを作成して研究発表ができるよう指導する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

スポーツマネジメント、スポーツ情報論、PC・ネットワーク入門、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

スポーツビジネス、データリテラシーⅠ、データベース演習、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

講義科目の映像教材を多数導入するなど、「わかりやすく興味の持てる授業」を実践することができた。教育方法の実践としては、本学が導入している PC 必携（BYOD）の制度を最大限に生かし、講義科目、演習科目ともに PC を積極的に活用した。また講義科目では、小テストを毎回導入

することにより、学生の理解度を確認しながら授業をすすることができた。

○作成した教科書・教材

「PC・ネットワーク入門」「データリテラシーⅠ」の教科書『コンピュータリテラシー(2025年度版)』(共著：高木・杉谷・正岡)を作成した。

○自己評価

本年度の教育活動における目標・計画については、概ね達成することができた。特に講義科目については、事前事後学習につなげるための課題提示、毎回実施する小テストを活用するなど、学生ひとり一人の理解度を確認していきながら授業運営に努めた。また演習科目の「総合演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「専門演習Ⅲ・Ⅳ」では、レポート作成、プレゼンテーションや研究発表を行うなど、同授業についても当初の目標を達成することができた。

Ⅱ 研究活動

○研究課題

スポーツツーリズムに関する研究

○目標・計画

【目標】

これまで発表してきた研究成果などをもとに、今後のスポーツツーリズムのあり方について検討する。

【計画】

スポーツツーリズムに取り組む自治体、スポーツ団体、NPO法人などの調査を実施し、新たなデータや資料収集し、分析する。

○2018年4月から2026年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

・杉谷正次，石川幸生『持続可能なスポーツツーリズムへの挑戦』唯学書房，2020年3月，pp.1-49.

（学術論文）

なし

（学会発表）

・Masatsugu SUGITANI, Yukio ISHIKAWA, Takashi ONO, Mamoru AOKI: Study on the Park-golf of the effects of a lifetime sport, From the survey of the awareness of Park-golf enthusiasts, International Conference of the 66th Japanese Society of Education and Health Science, Dong-A University Sunghak Campus South Korea, Journal of Education and Health Science, Volume 64, Number 1, August, 2018, p75.

（特許）

なし

（その他）

・『第2次西尾市スポーツ推進計画』西尾市教育委員会，2024年3月
・『西尾市スポーツまちづくりビジョン2040』西尾市，2023年3月
・岩本光一郎，杉谷正次ほか「(報告)入学選抜方法の妥当性：2016～2018年度入学生の個票データを用いた検証」東邦学誌第51巻第2号，2022年12月，pp.59-66.

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

2018年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究(申請1件、採択1件)

○所属学会

経営情報学会、日本情報経営学会、日本教育医学会、日本スポーツ産業学会、
日本生涯スポーツ学会、日本スポーツマネジメント学会

○自己評価

研究計画では、スポーツツーリズムに取り組む自治体、スポーツ団体、NPO法人などの調査を実施し、新たなデータや資料収集・分析することにしてはいたが、残念ながら調査対象である自治体やスポーツ団体とのスケジュールの調整がつかず、予定していた実地調査を実施することができなかった。そのため、今年度は同研究に関連した学会に出席するなどして、今後の研究活動に向けての知見を深めた。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

委員会等の諸活動に積極的に関与し、大学運営に寄与する。

【計画】

学長補佐（学生募集担当）としての業務をこなし、大学運営に貢献する。

○学内委員等

大学協議会、教学法人協議会

○自己評価

本年度は学長補佐（学生募集担当）としての業務をこなし、当初の目標である大学運営に貢献することができた。また、愛知東邦大学第4期中期経営計画（案）作成のプロジェクトチームのサブリーダーとしての業務を担当するなど、大学運営に寄与した。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

高・大連携授業等に積極的に関わるとともに、地域貢献、社会貢献としての地域スポーツ振興に寄与する。

【計画】

系列校である東邦高等学校の高・大連携授業、外部の高等学校から要請のあった出張講義を積極的に行う。また、日進市サッカー協会理事として、同サッカー協会の運営など地域スポーツの振興に寄与する。

○学会活動等

経営情報学会 2025年全国研究発表大会（北海学園大学）、日本スポーツマネジメント学会第18回大会（大阪商業大学）に参加した。

○地域連携・社会貢献等

・日進市サッカー協会理事（2008年7月～現在に至る）

○自己評価

高等学校から要請のあった出張講義(企画:チエルコミュニケーションブリッジ株式会社)では、「進路ガイダンス(経済・経営分野)」の模擬授業を担当、また日進市サッカー協会理事として地域スポーツ振興に貢献することができた。

V その他の特記事項(学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等)

積極的に学会に出席するなど、研究面での自己研鑽に努める。

VI 総括

本年度は学長補佐(学生募集担当)としての学務、また研究面では積極的に学会に出席するなど、当初の目標・計画であげた課題を概ね達成することができた。次年度も教育・研究活動のための時間を確保するなどして、さらなる教育・研究面で成果をあげられるよう努力したい。

以 上